

式 辞

三か年の蛍雪の功を積み、今ここに卒業証書を授与された第七十六期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申しあげます。

本来ならば、地域の方々をはじめとする、ご来賓の皆様方に、ご臨席を賜るところではございますが、皆さんもご承知の通り、新型コロナウイルス感染症の影響により、ご遠慮いただいた次第でございます。

さて、卒業生の皆さん。ただ今一人ひとりに手渡した卒業証書は、中学校の全課程を修了しただけでなく、同時に、九年間の義務教育を完全に修了したという、証明でもあります。今まで家族の方々の温かい励ましや地域の皆様からのご支援、また、先生方からのご指導によって健やかに成長し、今日の日を迎えることができました。多くの支えがあったことを忘れないでいてほしいと思います。

卒業生の皆さんにとっては、掛け替えのない中

学校での三年間。振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、学校の教育活動も大きな影響を受けた三年間でありました。しかしながら、皆さんは、そのような状況のもとでも、住中生として立派な姿を、後輩たちに、そして、私たちに示してくれました。その力はこれから生きていくうえで、大きな意味をなすものと考えます。

それでは、卒業式にあたり、私からは皆さんに「レジリエンス」という言葉を贈ります。

「レジリエンス」それは、世界初の民間人のみによる宇宙旅行での宇宙船につけられた名前。

名付け親は、宇宙飛行士の野口聡一さんです。

「困難な状況から立ち直る力を」という想いを込めてつけられたそうです。

「失敗を恐れずに何事にもチャレンジしていきましょう」といったお話は何度もしてきましたが、そのことと同時に、是非とも皆さんには、「失敗から立ち直る力、回復する力」、つまり「レジリエンス」を身につけてほしいと思います。

そのためにも心にとめておいてほしいことが

4つあります。

一つは、成果が表れなかった時には、「自分には才能がなかったからではなく、自分の努力が足りなかった」と反省をして、再び立ち上がること。才能は、粘り強く努力を続けた結果として花開くものです。自分の持てる可能性を信じて努力を積み重ねていってください。

二つ目は、失敗したことを悩んだり、悔んだりしても結果は変わらないということ。やるべきことは、次に備えての改善策を模索することです。気持ちを切り替えて、前へ前へと進むことです。

三つ目に、家や学校、あるいは職場で叱られた時には、叱ってくれている人の思いを汲み取れるということ。あなた方のことを思い、成長してくれることを願っての叱責です。叱られることで、心が鍛えられ、「折れない心」がつくられるはずで

す。
最後に、失敗しても他人のせいにするのではなく、自分自身としっかりと向き合うことです。他人のせいにした瞬間に自分事ではなくなっ

しまします。自分の行動に責任をもつことを忘れることなく、失敗から多くのことを学ぶことができる人であってほしいと思います。

卒業生の皆さん、これからの人生において是非とも「レジリエンス」を高めながら、心が折れることなく、諦めずに夢や目標に向かってしっかりと歩んで行ってほしいと心より願っています。

最後になりましたが、保護者の皆さま、お子さまのご卒業、誠におめでとうございます。これまで、本校の教育活動に、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

この三年間、私たち教職員一同は、子どもたちの成長を第一に考え、時には優しく時には厳しく教育活動に取り組んで参りました。子どもたちの行く手には、思いもよらない出来事が待ち構えているかもしれません。しかし、子どもたちはこの住吉中学校で培った「生きる力」を原動力として乗り越えていってくれることと信じています。

今後も、引き続き、本校へのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、お別れの時が近づいてきました。皆さんにお渡しした「卒業証書」は、皆さんを待ち受ける明るい未来へのパスポートです。

失敗を恐れずに何事にもチャレンジし続ける気持ちと、失敗から立ち直り困難な状況を乗り越えていく考え方を忘れずに、どうか幸せな人生を歩んでいってください。

皆さんの前途に開ける輝かしい未来を祝して、私の式辞といたします。

令和五年(二〇二三年)三月十四日

大阪市立住吉中学校

校長 坂井 伸浩